

東通原発工事公表延期 東北電きょう地元で説明

卷二

東通と女川3号機
再稼働優先順位なし

東北電が見解

東北電力の青木宏昭原子力本部長は4日、東通村の東通原発1号機と女川原発3号機（宮城県）の再稼働に向けた対応について、「どちらを優先するということはない」との見解を示した。

1号機の新工程公表延期を
説明した村議会全員協議会
終了後、報道陣の質問に答

えた。
東北電が保有する原発は
女川2号機が2024年10

月に再稼働。女川3号機は今年1月に地質調査を開始し、再稼働に向けた原子力規制委員会への審査申請は27年度以降になるという。東通1号機は審査中だが、本格移行は27年度になる見

東通1号機の方が進捗が早いのでは」と問われる
と、「現状からいくとそ
なる可能性が高いかと思つ
が、審査はこの先どうなる
か分からぬ。女川3号機
も遅れることなくしつかり
対応したい」と述べた。

大間原発「30年度厳しい」 Jパワ一、運転開始巡り

卷之三

大間原子の延命を進める
電源開発（Jパワー）の倉
田一秀取締役副社長執行役

員（大間現地本部長）は11日、大間町議会大間原発対策特別委員会で、2030年度としている運転開始目標について「全力を尽くすが厳しい」との認識を示した。Jパワーは1年前に6

大間原発 主な経緯と今後の流れ	
2008年5月	着工
11年3月	東京電力福島第1原発事故 本体建設工事が中断
12年10月	本体建設工事が再開
14年12月	規制委に安全審査を申請 (地震・津波審査が長期化)
24年9月	6度目の工程延期を表明
25年5月	プラント審査開始
26年10月	審査説明終了
	
	安全強化対策工事終了
（Jパワー想定）	30年度 運転開始？
	
	倉田副社長「厳しい」

8月に2度目の現地本部長に就いたばかりの倉田氏の発言に、石戸秀雄町議会議長は「就任早々、30年度（の運転開始）が厳しいと いう言葉が出るとは思いも

ムを含むMOX（混合酸化物）燃料を全炉心で燃やせる「フルMOX」炉。規制委の山中伸介委員長は7月の視察時に「世界でも類を見ないため、慎重に時間をかけて審査することになる」と述べていた。

9/12 壹周日報

東通原発工事見直し
村議「何のため誘致」
東北電説明に意見
協議会を開き、東通原発1号機の新工事公表延期について、東北電力から説明を受けた。2011年に始まつた運転停止期間が少なくとも16年超に及ぶことが確定となり、出席した議員からは「がっかり」というよりあきれられた。「原発を何のために誘致したのか」などの意見が上がった。

東北電の青木宏昭原子力本部長が出席し、再稼働に必要な安全対策工事の完了目標時期について、村側と約束した9月に明示できず、1年半ほど公表を先送りした。

南谷宏三議員は、新工事を確実に明示できるよう、「検討期間を1年半よりもっと延ばせばいいのは」と投げかけた。田村智和議員は「1年が10年に感じる。早く示されなければ（村が）原発とともにやつてきた過去が忘れ去ってしまう」と懸念。青木本部長は「1年半後には確度の高い工程を確実に出せる」と答えた。

東北電は再稼働の目標時期も示しておらず、青木本部長は「一日でも早く再稼働できるように全社を挙げて対応したい」と語った。全員協議会には畠中稔朗村長も出席した。



止めていた」とし、適切な審査対応や早期再稼働に努める考えを示した。村内29地区の総代への説明を順次行うほか、広報紙を通じて村民へ周知を図る。

一方、洋上風力発電を巡り、大手企業がコスト高を理由に秋田県沖などの事業から撤退したことを受け、東北電を含む3社による共同体が青森県の日本海沖で実施する事業については、「計画通り進める方向」と明言。近年の為替の影響や資材高騰などを踏まえ、コスト回収を可能とする運転期間の延長など、国による制度設計の見直し議論が進むことを期待した。

東北電力青森支店の下屋敷聰支店長は3日、青森市で開いた定例会見で、東通原発の安全対策工事完了の公表時期を先送りした」とについて、4日に開かれる村議会全員協議会や地区の総代へ東北電が説明する方針を明らかにした。当初今月としていた工程公表を2027年3月ごろと約1年半遅らせたことに関して、「(経緯を)丁寧に説明し、ご理解いただくとともに、地域のために何ができるかを考えながら対応していく」と強調した。

下屋敷支店長は「地域の方から(再稼働を)期待している。敷地の形状変更に伴い、策定済みの基準津波(想定される最大規模の津波)を再評価する。加えて、複合災害など悪条件下での安全対策の見直しなども行うため、プラント(本体施設)審査の準備や工事完了時期の公表に一定の時間要すると判断した。

9/4 デーリー東北→